

相生っ子

○めざす児童像
一心豊かに たくましく
ともに伸びゆく 相生っ子



令和4年8月31日 相生小学校 校長室だより

第15号 文責：岩佐隆之

相手の立場にたった、「自分がされて嬉しい」、思いやりのある言動をお願いします

昨日、「新型コロナウイルス感染症拡大と熱中症防止のためのマスク着用等の取組について（お知らせ・お願い）」を配付いたしました。今後とも、「相生っ子の安全・安心を第一」に取り組んで参ります。ただ、今回の変異株は感染力が強く、いつ・だれが・どこで感染するかわかりません。始業式や今日の朝会でも、「『自分がかかったら』と考えて、思いやりのある、自分がされて嬉しい言動をとろう」と話しています。ご家庭でも、ご理解、ご協力をお願いいたします。



体育・環境委員会による体育集会。画面を見ながら、みんなで楽しくストレッチ

7月14日（木）のスマイル集会は、Zoom開催でした。委員会のメンバー一人一人がお手本となって、それぞれ簡単なストレッチ体操を紹介しました。教室の相生っ子は、画面を見ながら、みんなで楽しく体を動かしました。熱中症アラートが出て、外遊びができない日が続いていた7月。室内でもできる体操があることも知り、気分も体もリフレッシュできました。



ワンランク昇進？子ども目線の生き生きした表現があふれていた「俳句集会」

7月15日（金）朝の集会は、「俳句集会」。俳句作りは開校以来の伝統ですが、廊下や教室に掲示するだけでなく、発表の機会をもとうと、今年から始めた集会です。相生っ子全員が、年1回、みんなの前で自作の俳句を披露します。みずみずしい感性の、子どもならではの表現には、いつも感心させられます。夏休みも、多くの子が俳句を作ってきています。秋に発行の「なか文芸」には、3年生以上の全員の俳句が掲載されます。新聞や句集への掲載も楽しみです。



頑張った相生っ子に6年生からのプレゼント！「スマイル班でのゲーム集会」

7月19日（火）4校時。4～6年の教室に班ごとに集まった相生っ子。4年教室は「〇×クイズ」。5年教室は「伝言ゲーム」。6年教室は「カルタ取り」。それぞれの教室を班ごとに移動し、3つのゲームを楽しみました。代表委員会での話し合いをもとに、6年生がすべて準備や運営を行いました。制限がある中、1学期の間ずっと頑張ってきた相生っ子に、嬉しいプレゼントとなりました。自分の勉強や生活でも忙しい中でも、学校のために、下級生のために、



（裏面もご覧ください。）

進んで行動できる6年生。本当に頼もしいです。ありがとう。

不審者対応訓練と防犯教室。ALSOKの皆さんに分かりやすいお話をいただきました

た



7月19日（火）5校時。まずは、児童玄関に不審者が侵入したとの想定での「職員・児童の不審者対応訓練」。教室では鍵とカーテンを閉め、バリケードを作り、子どもたちは教室中央でじっとしています。先生方は、児童の避難誘導班と不審者対応班に分かれて、それぞれ訓練を行いました。1年に1回の重要な訓練で、先生方も真剣に行い、子どもたちも静かに待つことができていました。そして、体育館に移動した後は、ALSOKの皆さんによる「防犯教室（ALSOK あんしん教室）」です。本校の警備保障もALSOKで、何か異状があればすぐに駆けつけてくださっており、テレビのCMでもおなじみです。寸劇やクイズを交えた子どもたちを飽きさせない展開で、あっというまの1時間でした。不審者に遭遇した時の対処法や距離の取り方、5つの約束「いかのおすし」についても、分かりやすく話してくださいました。



を飽きさせない展開で、あっというまの1時間でした。不審者に遭遇した時の対処法や距離の取り方、5つの約束「いかのおすし」についても、分かりやすく話してくださいました。

お世話いただいた健全育成センターの丹生さんにもお礼申し上げます。

お世話いただいた健全育成センターの丹生さんにもお礼申し上げます。

（裏面もご覧ください。）

この夏休みも、幸いにも大きな事件や事故に合うことなく、2学期を迎えることができました。保護

者の皆様に感謝を申し上げますとともに、これからも安全・安心を第一に、このような対応訓練や防犯教室を続けてまいります。

①しらぬいしとは、ついて...
いかずい!

②こえをかけられてもくまには...
のらずい!

安心して登下校 5つの約束! 「いかのおすし」

③知らぬいしに、つれて行かれそうになったら...
おまこえをだす!

④知らぬいしに、こえをかけられたりおまけられたら...
すぐにげる!

⑤こわいことになったら、おどしたら...
しらせる!

ALSOK あんしん教室

「JA あぐりあなん」8月号に、7月13日に行った花育の授業「けいとうのブーケづくり」が紹介されました。4年生と6年生が挑戦しました。 →→→



那賀経済センターでは、7月上旬から露地で栽培する“けいとう”の出荷が始まりました。若手生産者の飯島好さんは那賀町驚敷地区で“けいとう”の栽培に情熱を燃やしています。神奈川県出身で以前の仕事の関係で10年前、同町に移住して来ました。相生けいとう部会の新規就農者の募集を知り、農業を始めました。先輩農家から栽培方法を教わりながら取り組み、現在は“けいとう”を露地で50a栽培し、同部会の副部長を務めています。赤色、黄色、ピンク色と多様な品種を栽培し、市場や消費者ニーズに応じています。近年の異常気象には苦戦していますが、「赤色は主に仏花として使われるが、黄色やピンク色は花束やアレンジに使って家で飾ってほしい」とPRします。同センターでの今年産は、10月末まで200万本の出荷を予定しています。



驚敷デイサービスに“けいとう”プレゼント

相生けいとう部会は7月15日、驚敷デイサービスに色鮮やかな“けいとう”を300本プレゼントしました。デイサービスの職員さんが“けいとう”をブーケにアレンジして利用者の方々に渡してくれたそうです。東根泰信部会長は「部会として色々なイベントを企画していますので、子どもから高齢の方まで那賀町のきれいな花を楽しんでいただきたい」と意欲を燃やしています。

相生けいとう部会は7月13日、相生小学校の花育授業のため、多様な色の“けいとう”を提供しました。4年生15人と6年生17人は、家族に贈ることを目的に一生涯ブーケを作りました。児童は自分の好きな色の“けいとう”を選び、上手に束にしてラッピングペーパーを巻いて仕上げました。オリジナルのブーケを完成させた児童は「花育のおかげで花に触れ合うことができ嬉しかった。日頃の感謝の気持ちを込めて家族に贈りたい」と笑顔を見せていました。

(裏面もご覧ください。)